

台湾通信

「カラスガイナイ・・・ ゴミヤシキガフエル!?!」

文 高雄事務所 坂田 / 写真 高雄事務所 大辻

今台湾では、日本の街角に「のほほーん猫」が寝ている姿が大変話題になっております。

ツイッターなどでは、猫マニア、そうでない人でも、「わあーかわいい。」パシヤなのである。

そういえば、台湾には「のほほーん猫」をほとんど見かけない。「のほほーん犬」はみかけるが、もっともこっちは、みんな老犬でよたよた歩いて



食べ物が豊富な観光地でさえカラスはいない

いるのだが、ある意味「のほほーん犬」である。

ここで本題。今回は、「カラスガイナイ・・・ゴミヤシキガフエル!?!」というお話。ゴミに関するお話である。

外国人観光客は日本の街頭にごみ箱がないことに困っているという話もよくきく。まあ、それ以上にごみ箱がないのに街がきれいという話もよくきくが・・・。

また、日本に長く住む外国人が、一番厄介に思うことの 하나가「ごみの問題」である。そう、環

境に配慮した細かい分別、何曜日は「燃やすごみ」(注：現在は「燃えるごみ」という呼称ではない。)何曜日は「資源ごみ」はたまた「乾電池」「蛍光灯」は〇〇集積場までといった具合である。

台湾はどうであろうか？そもそも日本でよく見かける、「ごみを集めて防護ネットをかけて」を見ないのである。ごみを回収するのは、音楽を掛けながらやってくる「しあわせの？黄色いトラック」なのである。街角にごみ集めておく場所がないから当然にして、カラスのエサがないわけで、台湾の街でカラスを見かけることは、ほとんどない。これがカラスがいらない理由である。



日本の街角と違い、どこを見ても防鳥ネットのごみ置き場がナイ

では、カラスがいらないこととごみ屋敷がどうつながるかであるが、夕刊〇〇みたいで申し訳ないが、残念ながら直接はつながらないのである。「風吹けばおけ屋・・・」を題名からご想像された方すいません。世の中そんなに都合がよくない。

台湾では、ごみを捨てるのは、面倒くさいが毎日来るごみ回収車まで運びさえすれば、家の中にはゴミがたまることはない。台湾人は綺麗好きである。なれば、すごく便利である。日本のように、出し忘れて来週まで・・・がないからである。

では、ごみ屋敷はどんな時にできてしまうかであるが、答えは、「夜逃げ」である。

日本では、仮に借金取りが家の前に来るような場合でも、コンビニで食べ物を調達したり、当然時間を見計らってゴミもごみ置き場に置いとくこともできるわけだが、台湾にはそれが無いから、置いておけないのである。

したがって買い物には行けても、ごみを出すわ

けにはいかないのである。つまり、夜逃げをした家は100%ごみ屋敷になってしまうのである。

台湾のごみ屋敷は、生活感のあるゴミで溢れかえったごみ屋敷なのである。



どこを見てもカラス一匹…飛んでない